

機関番号： 14501
 研究種目： 基盤研究（C）
 研究期間： 2008～2010
 課題番号： 20539002
 研究課題名（和文） 15世紀以降のヨーロッパの地域統合におけるネーデルラントの中心性
 研究課題名（英文） Centrality of Netherlands in European integration after the 15th century
 研究代表者
 奥西 孝至（OKUNISHI TAKASHI）
 神戸大学・大学院経済学研究科・教授
 研究者番号 20211815

研究成果の概要（和文）：

15世紀以降のヨーロッパの地域統合におけるネーデルラントの中心性に関して、穀物流通ではステープル(集積地)として発達した穀物流通拠点の多層的流通構造のもつセグメント性と非商業的供給が存在することによる流通の安定性およびそれ自体の需要の大きさがゲートウェイとしての流通における分散機能を発達させるという現象がみられ、中心都市、周辺地域等での貨幣、財、情報の蓄積・流通量の地域的差異が変化することが中心の役割を変えていると考えられる。

研究成果の概要（英文）：

Structural change of grain circulation is a phenomenon of progress of centrality of Netherlands in European integration after the 15th century. In Flanders long-distance grain trade was very developed and unification of the grain market also progressed in the 15th century. A multilayered structure of grain circulation enabled such a situation. The supply of grain was carried out in a multilayered form in Flanders; grain came mainly from surrounding areas of the city, a specified grain production area in Flanders, north France, and the Baltic area. This multilayered structure brought stability in the circulation. Privileged institutions and regulations on grain circulation had developed in close relation with this multilayered circulation structure. In this way, grain supply in Flanders kept its stability in sensitive balance among many elements.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,300,000	0	1,300,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	570,000	3,770,000

研究分野： 社会科学

科研費の分科・細目： 経済学・経済史

キーワード：ネーデルラント、地域統合、中心性、156世紀、価格、

1. 研究開始当初の背景

15世紀以降のヨーロッパにおける地域統合の進展は、近代以降のヨーロッパの経済発展を考える上で最も重要な経済構造の変化

の一つと考えられてきた現象であり、ネーデルラントは、中世盛期以来のヨーロッパ有数の商工業地域であったフランドレン、ブラバントさらに17世紀以降に急激な発展を遂

げるホラントなどの諸地域があり、ブリュッヘ、アントウェルペン、アムステルダムという15～17世紀においてヨーロッパの流通の中心となった都市が存在しているため、中近世ヨーロッパの地域統合の中核地域と位置づけられてきた。

そのため、商業史、流通史の分野では、中心地理論およびネットワーク論を用いた構造分析的研究、商業の運営形態、商人の実態などに時代固有の特殊性に焦点をあてた経営史的、社会史的研究が進められ、オランダについては、マクロ経済構造においても近代的な特質を持つことがヤン・ドゥ・フリース、ヤン・ヴァン・ザンデンなどにより、また、世界市場と呼ばれた17世紀のアムステルダムは、物流においては他都市との連携がより重要であり、情報・決済の中心としての機能がより重要であることなどクレ・レスガーなどにより明らかにされてきている。ベルギーについては、アドリアン・フルフェルス、エリック・トゥーンらにより農業における先進性が商業の発達と密接に関係していること、ヘルマン・ヴァン・デル・ウェー、エリック・アールトらにより中心地域であることからの貨幣蓄積とその結果として物価水準の高さ、財政・金融システムの発達がみられること、ウィム・ブロックマンス、マルク・ボーネらによりブルゴニュ公国に成立した都市と国家の重層的統治構造の基でのボトムアップ型の政策・制度決定システムが実効性のある行政法・制度の制定において重要であることが明らかにされてきている。

ベルギー、オランダに残されている修道院やホスピタルの会計帳簿などの未刊行史料に含まれる取引先、月日などの定性的データを取り入れた数量分析を行えば、これまでの申請者の研究で明らかにしてきたように流通構造の多元的胴体的分析が可能であるにも関わらず、このような定性的データを寸断可能な形で組み入れた数量データベースが作成されていないため、近代ヨーロッパの地域統合や中心性に関する既存の研究では、15世紀以降のヨーロッパの地域統合についての同期性、平準化などの分析において年価格平均など主に1980年代までに作成されたマクロ分析のために作成された数量データが主に用いられている。15世紀以降のヨーロッパの地域統合に関するK. G. プレソン、S. R. エプステインなど近年の主要な研究の数量分析でもこのような価格データが利用され、研究代表者がこれまでの研究で明らかにしてきた地域内の市場化の価格変動への影響などは考慮されていない。

また、本研究が対象とするネーデルラントは現在ベルギーとオランダに分かれており、両国関係の歴史的経緯および研究教育体制の違いに加えて、現在両国に分かれている南北

ネーデルラントの経済的繁栄の時期の違うこともあり、それぞれの自国史として流通史研究が進められてきただけでなく、両国の研究者の共同研究においても、それぞれの国や地域の特殊性に重点をおいた比較分析が中心となっている。

2. 研究の目的

中世末期のヨーロッパ諸地域の経済史研究それぞれの地域の特殊性に重点をおいた比較分析が中心となっているのに対して、本研究は、ネーデルラントの中心性という機能面を対象を絞り、研究代表者を中心とするベルギー、オランダ等の研究者との研究グループを組織して、ネーデルラントのヨーロッパの地域統合における中心としての機能を連続的な形で分析することを研究の目的とする。研究代表者は、これまで4件の科学研究費補助金をうけ、当該分野に関するベルギー、オランダの研究者と協力して15～16世紀のフランデレンの穀物流通における市場機能と制度・規制との関係などについて明らかにした研究成果を基に、当該期間において、15世紀以降のヨーロッパの地域統合において中心的な地域として重要な位置を占めたネーデルラントについて、(1) 中心都市における広域流通にたずさわる商人間取引の場としての取引所の成立によるネーデルラントの多元的穀物流通の構造的変化がヨーロッパ全体の流通に与えた影響。(2) ネーデルラント内における穀物価格にみられる広域流通する穀物が消費される中心的都市と周辺の中小都市の間の価格動向の差異、価格決定メカニズムが異なる多元的流通構造を有する穀物と単一的流通構造をもつ特産財などの他の財の価格動向の差異に表れる構造的・機能的特質とその時間的変化および他地域への影響などを明らかにする。

このような研究により現代のヨーロッパ統合の歴史的基底のみならずグローバル化の歴史的基底となる現象を明らかにするとともに、日本発の国際共同研究の枠組みでの研究の推進に貢献する。

3. 研究の方法

これまで研究代表者が調査した修道院・ホスピタルの会計帳簿など未刊行史料をもとに取引先、月日などの定性的データを含む多層的な数量データベースを作成する。

この数量データベースをもとに定性的要因を含めた分析を行い、中心的都市と周辺の中小都市の間の価格動向の差異、価格決定メカニズムが異なる多元的流通構造を有する穀物と単一的流通構造をもつ特産財などの他の財の価格動向の差異についての構造的・機

能的特質とその時間的変化および他地域への影響についても分析を加え、ヨーロッパの地域統合の進展においてネーデルラントが果たした役割の動態的変化を明らかにする。これらの分析によって明らかにした動態的変化をもとに、オランダ・ベルギー研究者との国際学会、ワークショップでの議論、個別での研究打ち合わせにより、制度史、構造史における研究成果をとりいれて、ネーデルラントのヨーロッパの地域統合における中心としての機能を連続的な形で分析する。さらに、研究代表者が中心となるベルギー、オランダ等の研究グループを核としてシンポジウム等を組織し、当該研究をその一部とするより大きな研究の枠組みでの国際共同研究を推進する。

4. 研究成果

修道院・ホスピタルの会計帳簿など未刊行史料をもとに取引先、月日などの定性的データを含む多層的な数量データベースを下記について作成し研究代表者の分析に用いたが当初予定していたオランダ社会経済史研究所での公開については公開方法などについて協議中である。

(ベルギー)ヘント：1市当局、8ホスピタル、2修道院、1ベギン会、1教区教会、ブリュッヘ：4ホスピタル、1ベギン会、3教区教会、アールスト：1市当局救貧記録、1ホスピタル、オウデナールデ：1ホスピタル、コルトレイク：1ホスピタル、1ベギン会、イーペル：1ホスピタル、1教区教会、メヘレン：5ホスピタル、アントウェルペン：1ホスピタル、リール：1市当局救貧記録

15世紀以降のヨーロッパの地域統合において中心的地域として重要な位置を占めたネーデルラント(現ベルギー及びオランダ)の中心性に関わる研究開始時の第2の研究テーマとして挙げているネーデルラント内における穀物価格にみられる広域流通する穀物が消費される中心的都市と周辺の中小都市の間の価格動向の差異、価格決定メカニズムが異なる多元的流通構造を有する穀物と単一的流通構造をもつ特産財などの他の財の価格動向の差異についての価格分析および制度分析により、穀物流通においてステープル(集積地)として発達した穀物流通拠点での価格決定メカニズムが異なる多元的流通構造のもつセグメント性と非商業的供給が存在することによる流通の安定性およびそれ自体の需要の大きさがゲートウェイとしての流通における分散機能を発達させるという中心機能の変化を明らかにした。この研究については2009年9月にユトレヒト大学での研究会において海外の研究協力者との意見を交換し、その討議の内容をふまえて英

語論文 Multi-Layered Structure and Market Function of the 15th Century Flanders Grain Circulation を2010年3月に刊行、2010年4月13日のベルギー・ヘントで開催された第8回 European Social Science History Conference において From consumption center to gateway city: Ghent and grain circulation を報告した。

当初の第1の研究テーマとしてあげた中心都市における広域流通にたずさわる商人間取引の場としての取引所の成立によるネーデルラントの多元的穀物流通の構造的変化がヨーロッパ全体の流通に与えた影響については、穀物の流通速度・費用と中心都市における取引所での価格情報の流通速度・費用との差違が穀物流通構造の変化に影響を与えたことが分析により明らかになったが、全体としての産業および貿易の構造の差違による、ネーデルラントにおける諸中心都市および中心都市の周辺地域、穀物供給地域となる東欧諸地域の穀物貿易の拠点となる都市およびその周辺の農村地域における貨幣集積・流通量の差違の影響については、本研究に用いるのと同程度の定性的な要因を加えた他の財についての価格情報が必要となるため、本研究においては、その構造変化を理論的に分析することに重点を置くこととし、中心地形成における確率論的揺らぎ重力理論をふくむ自己組織化論およびスケールフリーネットワーク論をふまえた流通状況の分析を進め、2011年3月4日のベルギー・ブリュッセルで開催された Kobe University Brussels European Centre Opening Symposium. A New Era of Japan - Europe Academic Cooperation の一部として、本研究への協力をうけてきた研究者グループからロックマンズ、レスガー教授、関連分野の研究者から特に関係の深い研究者をアントウェルペン大学のブロンデ教授、ケンブリッジ大学のスパフォード教授を招聘して、本研究での研究成果をうけたシンポジウムである Historical role of Belgium and the Netherlands in European Integration を主催し、その総括報告 Theoretical understanding and Historical reality を行った。同報告およびその基となった数量分析の結果については英語および日本語での論文として刊行が決まり現在原稿を作成中である。また、本シンポジウムの報告を発展させ、今回報告しなかった研究グループのメンバーも加えた論文集を企画中である。

本研究の目的とした研究テーマについては当該年度中に一定の成果をあげ、さらに、日本発の国際共同研究の枠組みでの研究の推進についても一定の成果をあげることができ、本研究での研究成果を基にヨーロッパの研究グループの参加メンバーと協力した今

後の研究により、現代のヨーロッパ統合の歴史的基底のみならずグローバル化の歴史的基底となる現象のさらなる解明を行うことが可能になった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

① Takashi Okunishi, 'Multi-Layered Structure and Market Function of the 15th Century Flanders Grain Circulation' Kobe University economic review, 査読無、vol.55, 2009, pp. 9-34,

[学会発表] (計2件)

① Takashi Okunishi, 'From consumption center to gateway city: Ghent and grain circulation, at 8th European Social Science History Conference, Ghent (Belgium), April 13, 2010

② Takashi Okunishi, 'Theoretical understanding and Historical reality, at Historical role of Belgium and the Netherlands in European Integration of Kobe University Brussels European Centre Opening Symposium. A New Era of Japan - Europe Academic Cooperation, Brussels (Belgium), 4 April 2011.

[図書] (計1件)

① 奥西孝至 他、有斐閣、西洋経済史 2010, pp. 1-54.

[その他]

ホームページ等

特記事項なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

奥西 孝至 (OKUNISHI TAKASHI)

神戸大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号 20211815